

舌

tongue [tʌŋ]

普段はその動きや働きについてあまり意識しませんが、実は「舌」は私たちが健康な生活をおくるうえでとても大切。今回は、舌について考えてみましょう。

日常生活や健康維持にとっても大切な舌

舌には、食べ物の味を感じたり、かみ砕いて飲み込むまで食べ物をコントロールしたりといった機能があります。これらの機能が衰えると、食事をおいしいと感じなくなったり、むせる、食べこぼすなどで食事をおっくうに感じたりして、低栄養につながってしまうおそれがあります。

また、舌の力が弱まると、食べ物が誤って気管などに入ってしまったたり、滑舌が悪くなって人とのコミュニケーションがとりにくくなり閉じこもってしまうことも。舌は、私たちの日常生活や健康維持にとって、とても大事な役割を持つ器官なのです。

舌の機能

咀嚼・嚥下機能

口に入れた食べ物の温度や形、硬さなどを感じ取るほか、歯でかみやすいように食べ物を移動させます。細くなった食べ物は、舌によって集められ、飲み込むためにのどに送られます。



味覚機能

食べ物の味を構成する甘味、塩味、酸味、苦味、うま味を、舌の表面にある味蕾という部分で感じとります。舌の機能が低下したり、舌に汚れがたまると、味の感じ方が変化することもあります。

構音機能

言葉を話すときにも舌は大切な働きをします。舌の動きが悪くなると、特に舌を動かして作るカ行、タ行、ラ行の発音が不明瞭になります。

なかなか治らない口内炎に 要注意!!

口の中のがんでもっとも多い **舌がん**

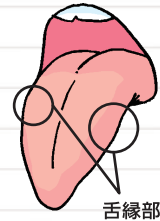
舌がんは、口の中にできる口腔がんの中で、もっとも多いがんです。舌の横の部分(舌縁部)にできることが多く、舌の裏側などの見えにくい場所にできることもあります。

症状としては、舌の粘膜に赤い斑点(紅板症)や白い斑点(白板症)、治りにくい口内炎などがみられることがあります。また、「舌の動きに違和感がある」、「しびれを感じる」、「しこりができたり硬くなったりする」など、痛みや出血を伴わないこともあるので注意が必要です。

たばこやお酒が要因の一つとされるほか、

合っていない入れ歯や内側を向いて生えている歯などによる舌縁部への慢性的な刺激や傷、口腔内の不衛生などもリスク因子とされています。高齢の方に多い傾向がありますが、20~30代の患者さんも珍しくありません。

予防としては、まず口の中を清潔にすること。歯や入れ歯が常に舌にあたっている場合などには、歯科での処置も有効と考えられます。



口の中のセルフチェック

口腔がんの初期症状は目で見てわかるものも多いので、早期に見つけやすいがんです。歯磨きの時にチェックすることを心がけ、異常を感じたら耳鼻咽喉科や口腔外科へ!

✓ 口内炎が2週間以上治らない

✓ 舌や口の中の粘膜が白くなっている

✓ 舌の赤みが強い
ただれている



✓ 舌にしこりを感じる

✓ 歯ぐきのはれや出血、歯のぐらつきがある

セルフチェックで
早期発見しましょう!

兵庫医科大学病院の舌がん治療

舌がんの治療は主に手術と放射線治療で、抗がん剤による化学療法を組み合わせることもあります。舌の機能をできる限り温存しながら根治をめざします。

手術

適切な切除範囲の見極めと再建手術で機能を温存しながら根治をめざします

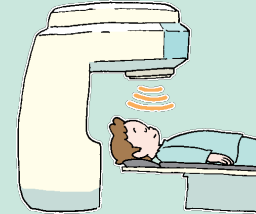
舌がんを含む口腔がんの治療のほとんどが手術により行われます。切除する範囲はがんの形や進行度によって異なりますが、舌がんの場合、舌のどれだけの部分が残っているかが機能にも影響するため、切除範囲を慎重に検討します。切除範囲が大きい場合は、太ももや前腕部から組織を移植して舌の欠損部を補う再建術を行います。その場合は、形成外科の医師と連携して手術を行うことになります。

口の中、特に舌はリンパの流れが豊富なところなので、早期のがんでもリンパ節への転移がみられることがあります。転移している場合や転移が疑われる場合、首のリンパ節を切除する頸部郭清術が併用されます。



放射線治療

IMRT (強度変調放射線治療)で副作用をより少なくし、治療効果を高めます



切除の対象にならないか、ご本人が切除を希望しないときなどには放射線治療が選択肢の一つになります。また、切除手術の後、リンパ節転移があった場合などに、再発抑制のため術後放射線治療を行うこともあります。兵庫医科大学病院では、コンピューターの助けを借りて腫瘍の場所や広がり合わせた最適な照射を行うことができるIMRT(強度変調放射線治療)を頭頸部がんの全例で実施しており、正常組織への照射を抑えて副作用を軽減しつつ治療効果を向上させています。

化学療法

カテーテルでより高濃度の抗がん剤をがん届ける

超選択的動注化学療法

手術や放射線治療と組み合わせて化学療法を用いる場合もあります。兵庫医科大学病院では、足の付け根の動脈から舌動脈までカテーテルを入れ、がん栄養を送っている血管にピンポイントで抗がん剤を注入する「超選択的動注化学療法」を行っています。